

岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数 / 366 名 (2016.8.6 現在)

編 集 発 行 / 「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL : 090-2604-7918 FAX : 019-653-6447

郵便振替口座 / 02250-1-60580 E-mail / hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage (岩手ホスピスの会通信) / <http://hospice.sakura.ne.jp/>

No. 55
2016年8月

岩手医大緩和ケアセンターと 緩和ケア病棟をテーマに講演

岩手ホスピスの会主催の第11回ホスピスセミナーが5月7日盛岡市で開催され、岩手医科大学附属病院緩和医療学科教授・木村祐輔先生が「岩手医大の緩和ケアセンターと緩和ケア病棟について」と題して講演しました。

会場には約50名の参加者が詰めかけ、木村先生のお話を熱心に聞き入りました。

木村祐輔先生は長年に渡り岩手の緩和ケアの地域連携を目指し、県内11の会場（岩手医大、他県内10の県立がん診療拠点病院）を結んで、看護師や医師をはじめとする総ての職種に緩和ケアテレビカンファレンスを実施して来ました。2010年に日本緩和医療学会が行った、一般市民対象の「緩和ケア」に関する認識度調査結果によると、緩和ケアの内容を知らない方が全体の7割を超えるという結果を得ており、緩和ケアはまだまだ一般にはなじみの薄い領域であることが明らかになっています。一方緩和ケアに必要な不可欠の医療用麻薬の消費量も、日本は他の先進諸国に比較して上から9番目の低い消費量となっております。

一方、岩手医大緩和ケアチームは2007年に腫瘍センターの1部門として発足し、医師10名、専従看護師3名、専任薬剤師2名他で構成され、年々新規患者以来数が増加の一途を辿っており、岩手医大の医療用麻薬消費量もこれに併せて増加しております。

先生のお話からこれまで10数年の岩手の緩和ケアの足跡をたどり、当会も岩手の緩和ケアの足取りと連動して歩んできたことを改めて認識しました。これからも木村先生の緩和ケアに関する取り組みに患者の立場から協力し、岩手の緩和ケアの発展に寄与出来ればと願っております。



多くの聴衆が詰めかけたホスピスセミナー



木村祐輔先生

岩手医科大学附属病院緩和ケアセンター

2012～2016年のがん対策推進基本計画見直しにより、すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の維持向上を目標として、2014年1月に厚労省より都道府県がん診療連携拠点病院に緩和ケアセンターを設置するよう通知がありました。

これを受け、岩手医科大学附属病院に2015年4月、緩和ケアセンターが開設されました。

緩和ケアセンターの設置要件としては、①がん看護関連の認定看護師等による定期的ながん看護カウンセリングを行うこと②緊急緩和ケア病床を確保し緊急入院体制を整備すること③相談支援センターとの連携を図り、がん患者とその家族に対して、緩和ケアに関する高次の相談支援を提供する体制を確保することなど11項目が掲げられています。

同センターでは木村先生を中心にがん性疼痛看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、緩和ケア認定看護師らが、「全人的なつらさの全てに対し、質の高い支援を行うことができる」を目標に活動が始まっています。

岩手医科大学附属病院緩和ケア病棟 2019年5月設置予定!

岩手県内第7番目のホスピスとなる岩手医大緩和ケア病棟は2019年5月開設に向けて準備中の岩手医大矢巾新病院最上階(10F)に設置予定です。同病棟は全25床で内訳は、特別個室2床、有料個室6床、無料個室17床となっています。木村先生は「これまで培った地域連携の輪を基盤に、岩手県全体のホスピスケアの充実を目指します、とおっしゃっていました。一人でも多くの患者さんがより良いホスピスケアを受けられることを願っております。

岩手医科大学附属病院緩和ケア病棟：〒028-3602 岩手県紫波郡矢巾町大字藤沢
緩和ケア病床25床 緩和ケア病棟開設予定：2019年5月

岩手医科大学緩和ケア医師研修参加レポート

2016年度岩手医科大学附属病院緩和ケア研修会が5月14、15日岩手医大矢巾キャンパスで開催され、集まった医師の方々が様々な角度から二日間に渡って研修を受けました。研修会には当会から2名講師として招かれ、「岩手県における患者さんの声」と題して、患者の立場から緩和ケアの充実、緩和ケア医療のスキルアップの必要性、医療用麻薬をもっとうまく使用して欲しい等を訴えました。



「患者さんの声」を当会が講演

がん患者家族サロンボランティア研修会参加

5月28日、岩手医科大学附属病院がん患者家族サロンボランティア研修会が盛岡市プラザおでって会議室で開催され、当会から3名が参加して同院患者家族サロンのボランティアとして、患者さんとのコミュニケーションのポイント(当日の資料より)等について学びました。

最期まで食べる楽しみを

～がん患者さんのための栄養講座開催

(新聞記事を12ページに掲載)

7月30日(土)盛岡市総合福祉センターで「がん患者さんのための栄養講座」を開催し、胆沢病院栄養サポートチーム専従管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士の蛇口真理子さんが「最期まで食べる楽しみを～一般病棟での緩和ケアの取り組み」と題して講演し、様々なエピソードを紹介しながら、終末期の患者さんの食事ケアがどんなに大切かを伝え多くの聴衆に感銘を与えました。



講演する蛇口さん

盛岡二高家庭クラブの実践報告

今回は特別ゲストとして盛岡二高家庭クラブの菅原亜美さん他3名を招き、「減塩・カルシウムアップの実践報告」と題して講演していただきました。菅原さんらは岩手県が脳卒中全国ワースト1位から脱却するために、様々な減塩レシピに取り組んできたこれまでの活動や、一生を通じて欠かせないカルシウムUPについても報告しました。

二高家庭クラブのメンバー



～減塩レシピ紹介～

ミルクひつまみ

塩分相当量
1.3g

〈材料〉

- 薄力粉…200g ● 牛乳…300mL ● 水…50mL
- サバの水煮…2缶 ● 干し椎茸のもどし汁…1,200mL
- キャベツ…1/4玉 ● にんじん…1本
- 長ネギ…1本 ● トマト…2個 ● しめじ…50g
- 酒…大さじ1 ● 生しょうが(すりおろし)…1かけ
- 白味噌…小さじ2 ● 塩…小さじ1

〈作り方〉

- 1 牛乳と水各50mLをあたため、薄力粉に入れ、耳たぶ程度のかたさになるまでこねる。
- 2 1にラップをして寝かせる。
- 3 野菜を食べやすい大きさに切る。
- 4 干し椎茸のもどし汁、サバの水煮(汁ごと)、トマト以外の野菜、しめじを鍋に入れ、沸騰させる。
- 5 寝かせていた生地を薄くのばしながら、4にちぎって入れる。
- 6 酒、しょうが、白味噌、塩を入れ、味を整える。
- 7 牛乳250mL、トマトを入れ、一煮立ちさせて完成。

(レシピアドバイザー：管理栄養士 白井名津子氏)



医療者と患者会の連携を模索

医療者と患者会による緩和ケアに関する合同検討会議が7月16日岩手県庁で開催され、岩手県内のがん患者会10団体23名が一堂に集まり、当会からも4名が参加。

医療者側からは岩手医大緩和医療学科特任教授・木村祐輔先生を筆頭に、盛岡赤十字病院、往診クリニック、県内県立病院等から緩和医療科長、緩和ケア認定看護師他緩和ケアに関連する医療者ら総勢20名が参加しました。



患者会と緩和ケア医療者が初めて一堂に

緩和ケアをテーマに患者会と緩和ケア関連医療者が一堂に集まったのは岩手では初めての事で、大変感慨深いものがありました。

初めに木村祐輔先生から、今回の会議は、医療者が緩和ケアを学ぶ「緩和ケア研修会」について、昨年4月から国の指針の一部改定があり、「患者会をはじめ、患者や家族の意向を十分に反映するため合同検討会議等を開催し、患者の声を積極的に取り入れること」を受けての開催となったとの説明がありました。

「地域のニーズを医療者の緩和ケア研修会の運用に役立てること」との指針から、各患者会も医療者の緩和ケア研修会に協力していただけませんか？との木村先生の要請に応え、当会では「会が設立した原点に立ち返り、今後県内各地で開催される緩和ケア研修会に参加させていただき、ぜひ患者の立場から緩和ケアに関する思いを医療者の方々にお伝えしたい」と木村先生に伝えました。各患者会からは緩和ケアに関する疑問点等の質疑応答がなされました。

これから医療者と患者会がより良い形で連携し、岩手の緩和ケアが推進されることを願っています。

緩和ケア部会の設置を要望 (9ページに新聞記事掲載)

第18回岩手県がん対策推進協議会は7月21日盛岡市内で開催され、昨年度のがん対策の取組状況や新年度の取組について関係団体からの報告がありました。



第18回岩手県がん対策推進協議会

新年度のがん対策の取組について、当会は以下の通り意見を述べ、県医療政策室の野原副部長や高橋課長が、「重要な意見であり検討したい」との意向を示しました。

「岩手の緩和ケアの推進のために、岩手県がん対策推進協議会に、同会の専門部会であり下部組織として「緩和ケア部会」を設置して欲しい、と要望いたします。現状では岩手の患者の意見を幅広く汲み上げ施策に反映させる場所がありません。「緩和ケアに関する合同検討会議(上述)」担当の木村祐輔先生、県医療政策室ご担当者、参加した患者会有志一をそのまま中心メンバーにして緩和ケア部会を設置し、県内各地のがん患者の意見を吸い上げ、がん対策推進協議会に反映させていただきたいです。合同検討会議では各地域の患者会から、自分たちもがん対策推進協議会に参加させてほしい、という強い要望がありました。」

全国のがん診療連携拠点病院へタオル帽子発送 (新聞記事を11ページに掲載)

2016年5月。今年も全国のがん診療連携拠点病院 407 箇所のうち、依頼のあった 34 箇所の病院にタオル帽子総数 3,200 個を発送しました。昨年より送付数 1,330 個増、送付病院 11 件増となりました。(新聞記事掲載以降に追加依頼があった分を加算)

全国の患者さんがお送りしたタオル帽子で少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア一同願っております。

送付先病院一覧

- 北海道：札幌医科大学附属病院、KKR 札幌医療センター、北海道がんセンター 青森県：三沢市立病院
- 秋田県：大曲厚生医療センター 岩手県：県立中部病院、岩手医科大学附属病院、県立胆沢病院、盛岡友愛病院
- 山形県：山形県立中央病院 千葉県：千葉県がんセンター 静岡県：藤枝市立総合病院
- 愛知県：名古屋医療センター、愛知県がんセンター中央病院
- 岐阜県：岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター
- 福井県：福井赤十字病院
- 石川県：石川県立中央病院、金沢医科大学病院
- 滋賀県：市立長浜病院 兵庫県：兵庫医科大学病院
- 愛媛県：済生会今治病院、愛媛県立中央病院
- 福岡県：九州大学病院がんセンター、社会保険田川病院、福岡東医療センター
- 佐賀県：佐賀県医療センター好生館
- 大分県：大分大学医学部附属病院、別府医療センター
- 熊本県：熊本大学病院
- 鹿児島県：鹿児島医療センター、県民健康プラザ鹿屋医療センター
- 沖縄県：琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院



タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：031-0823 青森県八戸市湊高台 6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会・サロン日程

9月10日：タオル帽子講習会・サロン 10月8日：タオル帽子講習会・サロン

11月12日：タオル帽子講習会・サロン 場所：盛岡市総合福祉センター

開催時間：午後1時30分から 問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願います。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

「岩手ホスピスの会」がん相談ホットライン

開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分～4時(月により変更あり) 相談無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場(月により変更あり)
内容	電話相談：がん全般についての相談に対応致します。 直接面談：上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

岩手県内各ホスピス現況 (2016年7月現在)

(岩手ホスピスの会調べ 詳細は各病院に直接お問合せ下さい) 8ページにもご案内を掲載

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	一関市狐禅寺字大平 17 番地	北上市村崎野 17 地割 10 番地	奥州市水沢区羽田町 字水無沢 495-2
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	24 床 (個室 20、2 床室 2)	24 床 (個室 18、2 床室 3)	20 床 (全室個室)
ベ ッ ト	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 床 有料 10 床	無料 17 床 有料 7 床	無料 14 床 有料 10 床	無料 20 床
有料室料金	1 日 3,240 円	1 日 5,400 円・ 10,800 円	1 日 3,130～ 6,370 円	1 日 3,240～ 13,180 円	無料
看 護 師 数	18 名	22 名 + 看護補助者 2 名	17 名	17 名 + 補助 3 名	17 名 + ケースワーカー 1 名 + 看護補助者 5 名
ホスピス医	米山幸宏先生	旭博史先生、 畠山元先生	平野拓司先生	関根義人先生、 星野彰先生、 平賀一陽先生	菊池俊弘先生、 及川司先生
看 護 師 長	藤原久美子さん	高橋節子さん	和泉美奈子さん	菊池恵美子さん	小林洋子さん
入院審査を受けるには	医療福祉相談室に ご相談ください。 月～土曜 8:30～ 17:15(担当 及川)	緩和ケア相談室へお 問い合わせください。 月～金曜 9:00～ 16:00	0191-23-3452 (入院相談等) がん相談支援センター 相談時間: 平日 9:00～ 16:00	0197-71-1511 (入院相談他) がん相談支援室 相談時間: 平日 9:00～ 16:00	入院相談(担当:ケー スワーカー) 後面談 入院検討会(医師、 薬剤師、栄養士、看護 師、理学療法士で構成)
審 査 日	随時	随時	随時	随時	随時(その後ベッド が空くまで待機)
ホスピス入院 平均待機者人数	0～2 名	0	0	3～4 名	0
ホスピス入院 平均待機期間	状況により数日～ 1 週間 重症者優先	外来受診後、 平均 6 日	1～2 日	待機期間は同院一般 病棟や近隣の病院、 連携のとれている訪 問診療で対応	0
利用者内訳	盛岡市周辺がほとん ど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほ とんど	一関市周辺や宮城県 北の方がほとんど	花巻北上周辺の方が 8 割以上。その他は 水沢、盛岡南部等	奥州市周辺の方がほ とんど
緩和ケア外来	診察日: 月～水・金・土 8:30～ 17:15 木 8:30～ 12:30 担当医:白木豊先生・ 米山幸宏先生	診察日: 月・火・水、要予約 担当医:旭博史先生・ 畠山元先生	診察日: 月～金、要予約 担当医: 平野拓司先生	診察日: 月～金の午前、要予 約 担当医: 星野彰先生	診察日: 水、要予約 担当医: 菊池俊弘先生
ホスピスボラ ンティアの 人数と活動	登録者 24 名 実働 7～8 名 ホスピスボランティア 募集中 019-656-2888 4 階病棟藤原まで 都合のよい時間でよ いのでぜひ!	病院 ボランティア 登録者 25 名。うち 23 名がホスピスで 活動中。	ボランティアコー ディネーター 2 名、 ボランティア 12 名 活動:ティータイム、 季節の行事、がん患 者サロン(こころば)	H23 年 6 月～ボラ ンティア活動開始 40 名登録 定期的に研修を行っ ている	現在登録者 5 名で 活動中。ホスピスボ ランティアを随時募 集中
遺族会の名 称と連絡先	ひだまりの会 年 1 回開催 院外の方も参加可能 連絡先:及川、藤原	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催	偲ぶ会 年 1 回程度開催予定	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 6 回開催	<small>しちせき</small> 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 4 回開催
入 院 料			医療保険適応		一般病棟と同じ

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2016年4月～7月)

当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで74,030個に上っています。帽子を作るボランティアの皆さんに深く感謝申し上げます。



*先日がんセンターの点滴室で抗がん剤を受けた際、タオルの花柄のステキな帽子をいただきました。落ち込んでいた時なのでごくうれしかったです。大切に使用させていただきます。厚さ厳しき折、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。(千葉県)



タオル帽子講演会 (7月1日開催)

*昨日は初めての通いで点滴抗がん剤でした。不安な気持ちをそっと受け止めるように親切に接して下さった看護師さんが、そっと差し出して下さったのが「タオル帽子」でした。「暑い日々、タオルで作られた夏帽子が欲しいな～」と思っていた矢先で、びっくりしました。しかもお代金はいりませんということで、パンフレットを読ませていただいて感謝の思いでいっぱいになりました。さしあたって未使用タオルが見つかりませんでしたので、ささやかながら寄付で御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。(兵庫県)

タオル帽子への思い

8月6日に開催された盛岡市のタオル帽子サロンで、お母さん、妹さんと一緒に参加した小学校4年の山田明希(あき)さんが、とても上手にタオル帽子を縫い上げました。(写真左)

明希さんは「がん患者さんのために少しでも力になれたらいいなと思いました。また、帽子を作るには、返し縫いという縫い方がありました」と話していました。



タオルを縫い上げてにっこり



フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひ申し上げます。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルが不足しております。できましたらご寄付のご協力をお願いいたします。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひお送りください。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

書籍紹介

「ユマニチュード」という革命： なぜ、このケアで認知症高齢者と 心が通うのか

イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ

内容

「ユマニチュード」とはフランス発祥の認知症ケアの方法です。「ユマニチュード」は、特別な技術や専門施設でしかできないものでもなく、誰もが学べ、実践できる技術であり、効果が高いことから「魔法のケア」といわれています。

ユマニチュードの基本は、「見つめる」「触れる」「話しかける」「立つように支援する」、この4つです。

本書では、ユマニチュードを用いた認知症の方のケアを中心に紹介されていますが、ユマニチュードの基本からは、「ケアとは?」「人とは何か?」が伝わってきます。

○出版社：誠文堂新光社 ○発行日：2016年8月3日 ○価格：1,512円（税込）



岩手県内各ホスピス現況（2016年7月現在）

盛岡友愛病院緩和ケア病棟

6ページにもご案内を掲載

住所／岩手県盛岡市永井 12-10
電話／019-638-2222 病床数／18床
ベッド／個室10床のうち9床が有料
4床室無料

有料室料金／1日5,400円
看護師数／11名＋補助3名
ホスピス医／藤井祐次先生
看護師長／高橋美穂子さん

入院審査を受けるには／医療相談室まで。
TEL：019-638-2222（代表）
月～金曜：9:00～17:00
土曜：9:00～12:30

審査日／週2回を予定
ホスピス入院平均待機者数／4～5名
ホスピス入院平均待機期間／1週間程度
利用者内訳／盛岡市周辺の方がほとんど

緩和ケア外来／開設未定
ホスピスボランティアの人数と活動／稼働検討中
遺族会の名称と連絡先／設置未定
入院料／各種医療保険適用、
医療費の他に食事代別途徴収



盛岡友愛病院新西病棟

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2016年4月～8月

- 4月 9日 通信54号発送作業～第4回役員会～タオル帽子サロン・講習会
(盛岡市総合福祉センター、28名)
- 4月 10日 老人施設「はるかぜの家」見学
…………… (盛岡市はるかぜの家、5名)
- 4月 16～17日 タオル帽子チャリティーバザー
…………… (滝沢市土日ジャンボ市、7名)
- 4月 23～24日 タオル帽子倉庫作業
…………… (盛岡市タオル帽子倉庫、8名)
- 4月 30日 タオル帽子倉庫作業
…………… (盛岡市タオル帽子倉庫、7名)
- 5月 3日 タオル帽子倉庫作業 …………… (盛岡市タオル帽子倉庫、6名)
- 5月 7日 ホスピスセミナー…………… (盛岡市総合福祉センター、60名)
- 5月 8日 タオル帽子倉庫作業 …………… (盛岡市タオル帽子倉庫、3名)
- 5月 14日 第5回役員会～全国がん診療連携拠点病院へのタオル帽子発送
…………… (盛岡市総合福祉センター、10名)
- 5月 15日 岩手医科大学附属病院緩和ケア研修会参加 … (矢巾町岩手医科大学キャンパス、2名)
- 5月 22日 タオル帽子倉庫作業 …………… (盛岡市タオル帽子倉庫、7名)
- 5月 28日 岩手医科大学附属病院がん患者家族サロンボランティア研修会参加
…………… (盛岡市おでって、3名)
- 6月 11日 第6回役員会～タオル帽子サロン …………… (盛岡市総合福祉センター、27名)
- 6月 18～19日 タオル帽子チャリティーバザー…………… (滝沢市土日ジャンボ市、12名)
- 6月 21日 岩手県保健福祉部医療政策室訪問 …………… (盛岡市、2名)
- 6月 25日 被災地支援草刈りボランティア…………… (陸前高田市上壺仮設住宅周辺、4名)
- 7月 1日 内野株式会社訪問～MSD株式会社主催タオル帽子講習会参加
…………… (東京都・内野株式会社、MSD株式会社、4名)
- 7月 9日 第7回役員会～タオル帽子サロン …………… (盛岡市総合福祉センター、26名)
- 7月 16日 医療者と患者会による緩和ケアに関する合同検討会参加 …………… (岩手県庁、4名)
- 7月 16～17日 タオル帽子チャリティーバザー…………… (滝沢市土日ジャンボ市、10名)
- 7月 21日 第18回岩手県がん対策推進協議会参加 …………… (盛岡市エスポワール岩手、2名)
- 7月 30日 がん患者さんのための栄養講座開催 …………… (盛岡市総合福祉センター、35名)
- 8月 5日 第2回岩手緩和ケアセミナー受講 …………… (盛岡市グランドホテル、3名)
- 8月 6日 第8回役員会～タオル帽子サロン …………… (盛岡市総合福祉センター、25名)



盛岡二高家庭クラブの皆さん

新年度会費の納入をお願いいたします。

岩手ホスピスの会は皆さんの会費により運営されております。2018年度会費(2018年1月～2018年12月分)を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上振込をお願いいたします。
 なお、行き違いですすでにお支払いいただいております折は、なにとぞご容赦ください。
 また、ご住所の変更があった方はお手数ですがご連絡をお願いします。
 会費：1,000円(複数口可) 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

MSD株式会社主催タオル帽子講習会参加

通算3回目となるMSD株式会社主催タオル帽子講習会が7月1日東京・九段の同社で開催され、当会から4名が講師として参加し、約20名の受講者にタオル帽子の作り方を講習しました。

今回は同社社員で米国人のマーク・ジョンさんも初めて講習会に参加して、器用な手つきで帽子を縫い上げました。タオル帽子を見て、自分でも作ってみたいと思い今日参加しました、と笑顔で語っていました。



マーク・ジョンさん

被災地支援草刈ボランティアレポート



胆沢から参加した安倍さん



陸前高田市上壺仮設住宅にて



6月25日(土) 東日本大震災被災地支援活動として、陸前高田市上壺仮設住宅周辺において生い茂った雑草の草刈りボランティアを行いました。昨年も開催し、仮設住宅の方から大変助かったとお礼の言葉を頂きましたが、今年も皆で取り組みました。盛岡から会員4名の他、今回は胆沢地区からも当会会員1名が参加して仮設住宅周辺の草刈りに汗を流しました。未だ復興途上の被災地に。まだまだ支援のニーズはあると思います。今後も機会があれば様々な角度から被災地支援に取り組みたいと思います。



磯田さん(左から2人目)を囲んで

●●内野株式会社訪問●●

7月1日、いつもタオル帽子でご支援いただいている東京の内野株式会社を訪問し、日頃お世話になっているお礼と今後の活動の連携について話し合いました。当日は同社商品本部の磯田 俊治様に対応していただきました。

特に今回は、一昨年 UCHINO × 岩手ホスピスの会で共同開発した医療ケア用タオル帽子を一人でも多くのがん患者さんに活用してもらいたい、との思いから、同タオル帽子の販路拡大について話し合いました。

岩手ホスピスの会

熊本にもタオル帽子



全国の病院に発送するタオル帽子を準備する岩手ホスピスの会の会員やボランティア

全国のがん拠点病院へ

ボランティア 手縫い 2050個を発送

岩手ホスピスの会（川守田裕司代表）は14日、抗がん剤治療などで脱毛に悩む患者のためのタオル帽子2050個を全国のがん診療連携拠点病院25カ所に送った。熊本地震で被害を受けた熊本市の熊本大学病院にも、この日の発送に先立ち今月初めに約150個を発送。痛みや不安に寄り添う気持ちを手作りの帽子に込めた。

盛岡市若園町の市総合福祉センターで行われた発送作業には、帽子作りに協力するボランティアら約30人が参加。縫い上がった帽子に不具合がないか丁寧に確認したあと、全国の病院の希望に応じた個数を袋に詰めた。

タオル帽子は、フェイスタオル1枚を裁断し手縫いで仕上げる。肌触りが良く、洗濯できる上、縫った人の気持ちも伝わると好評だ。2008年の制作開始以来、全国の病院に送った帽子は7万個を超えた。

4年前から帽子作りに協力する同市の山下恵子さん（69）は「10年前にがんで父を亡くした。父を思いながら縫うことも多く、自分が救われている。できると世間に恩返しができる」と話す。

盛岡二高家庭クラブ 熊本大学病院がん相談支援センターから長（3年）は全校に呼び掛けて集めたタオルを持参。帽子作りへの参加など今後も同会の活動に協力していきたいという。「若い世代にも活動を広めてほしい」と意欲を語った。

熊本大学病院がん相談支援センターからは、「熊本地震発生後、間もなく『震災で自宅の中にウィックを置いてそのまま取り出せない患者がいる』『こんな時だからこそ、がん患者さんの話を聞きたい。診療を開始できない他病院とも情報交換し、必要な帽子を持って帰ってもらおう』などと支援を求めるメールが届いた。」

岩手ホスピスの会の吉島喜美子事務局長は「何かできることはないか気に掛けていた。頼りにしてもらえたことがうれしかった」と振り返り、継続的な支援を誓う。

同会への問い合わせは電話0800-11658-1762へ。

■県がん対策推進協、施策に患者団体の意見反映求める 県がん対策推進協議会（会長・小原紀彰 県医師会副会長）は21日、盛岡市内で開かれ、がん対策施策に患者団体の意見を一層反映させるよう求める声が上がった。

医療関係者、患者会ら約20人が出席。岩手ホスピスの会の川守田裕司代表は「幅広い患者の声を協議会に反映させてほしいとの意見がある」と紹介。他県の事例も踏まえ協議会の下部組織として緩和ケア、治療、予防などの専門部会設置を提案した。

県医療政策室の野原勝室長はがん診療や予防について協議する別組織が既にあるとした上で「それらの内容についてまずは協議会に報告したい。下部組織はいろいろな意見を聞いて検討する」と述べた。

協議会には複数の患者会の代表が出席しているが、県内には13の患者会がある。

心支える食事の大切さ

盛岡二高 家庭ク委 ホスピスの会講座参加



栄養講座の終了後、参加者らと交流を深める盛岡二高家庭クラブ委員会のメンバー

摂取も期待できる「ミルルクひつつみ」を考案したことなどを報告した。

続いて、蛇口さんが「最期まで食べる楽しみを―一般病棟での緩和ケアの取り組み」と題し講演。末期がんで食事が難しくなった患者一人ひとりに寄り添い、器や見た目、食べ物の大きさも工夫しながら食事を提供していることを紹介した。

終末期の患者が望めば、病院内であってもビールやワインを添えることもある。水もほとんど飲めなかった患者が、好物のビールは飲み干した。病院で銀婚式を迎えた患者に手作りのカードを添え、たくさんの種類を一口ずつ味わえるお祝い膳を出したことも。余命わずかとなった、ある男性からリクエストされたのは、幼い頃の思い出が詰まった「塩おにぎり」だった。

食べ物には「人生が織り込まれている。人

生の物語を大切にしたい。その思いに寄り添うことは、患者さんの最期を支えるだけではなく、生き方を教えていただく時間でもある」と蛇口さん。「一口でもおいしいと感じてもらいたい」と感じて

一つのお膳、一つの食べ物を通して、あなたが大切だという思いを伝えたい」と語った。講演会後には参加者による交流会も開催

高校生の参加について「さまざまな年代が集う場に積極的に参加している姿勢が素晴らしい。出会いを大事にしてほしい」「若い時期に、がんや終末期の患者さんについて学ぶ機会には、大きな財産になると思っ」など、歓迎する声が相次いだ。

盛岡二高家庭クラブ委員会は岩手ホスピスの会が取り組む、がん患者のためのタオル帽子作りに共感し、タオル集めに協力するなど同会と交流している。一般市民向けの講座に

加わるのは初めて。菅原委員長（3年）は「すごく刺激になったし、心を支える食事の役割も学ぶことができた。これからも活動に協力していきたい」と話した。

同委員会は8月27日に開かれる「二高祭」でも活動成果を紹介し、タオル帽子への協力を呼び掛ける。